

さっぽろのまちづくりにみんなの声を届けよう!

第20号
平成31年3月発行



子ども通信

この通信では、「子どもの権利」に関するさまざまな取組をお知らせします。

札幌市からのお知らせ

子どもの権利条約が、平成31年4月で施行10周年を迎えます。札幌市は、これからも子どもにやさしいまちを目指して、さまざまな取組を進めていきます。

10周年記念
ロゴマークはコレ!!



今年の11月には
10周年記念行事も
あるよ!



SAPPORO

札幌市役所では、さまざまな場面で子どもが意見を言う機会をつくり、子どもの視点を活かすよう取り組んでいます。今回は、子どもたちの声を札幌のまちづくりに届ける取組として実施している「子ども議会」と「子どもの提案・意見募集ハガキ」について紹介します。

子ども議会開催!!

平成30年度の子ども議会は、小学4年生から高校3年生までの48名の子ども議員と5名の学生サポーターが、4つの委員会に分かれて、10～12月の期間に札幌のまちづくりについて考え、提案をまとめる活動を行いました。

12月27日に市議会の議場で行われた本会議では、秋元市長も見守る中、子ども議員が考えた提案を発表しました。



子ども議員の提案

災害半端ないって委員会

(テーマ:防災)

- 子どもが楽しみながら防災について学ぶための札幌防災検定
- 子ども防災部を作る

G'MONPEOPLEバス乗ろう!!

委員会 (テーマ:バスの利用促進)

- みんながバスに乗りたくなるような楽しい広報
- 季節ごとにバスの車内に飾りつけをする

U.S.A委員会

(テーマ:障がいの理解)

- 障がいのある人を助けたいと思う人がつけるマークの作成
- 挨拶など日頃からできる心遣い

SDGs(札幌だってがんばるッス)

委員会 (テーマ:SDGsの普及)

- SDGsは私たちの生活に身近なもの
- SDGsの広報(SDGs弁当や理想の未来を描いたクリアファイルなど)

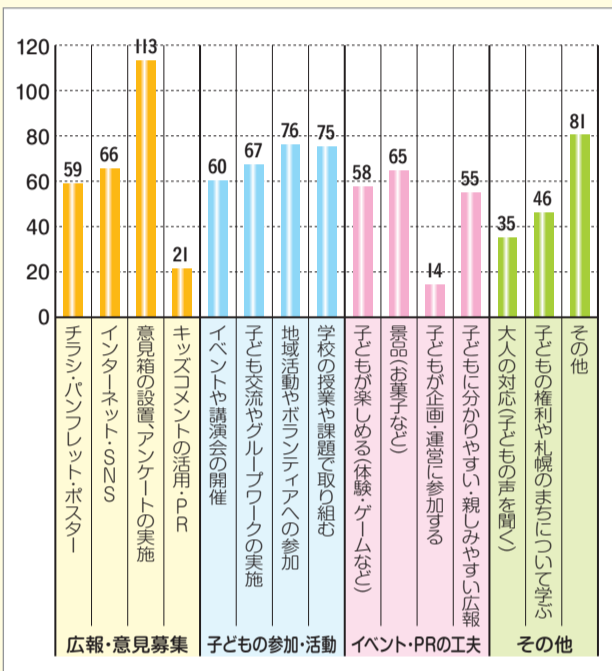
子どもの提案・意見募集ハガキ

札幌のまちづくりに関するこのテーマについて、子どもたちから提案や意見を募集するため、返信用ハガキ付きの用紙を市内の学校などに配ったところ、11～12月の期間で合計593名の子どもたちから意見が寄せられました。

テーマ1

子どもの参加の促進

583名
891件

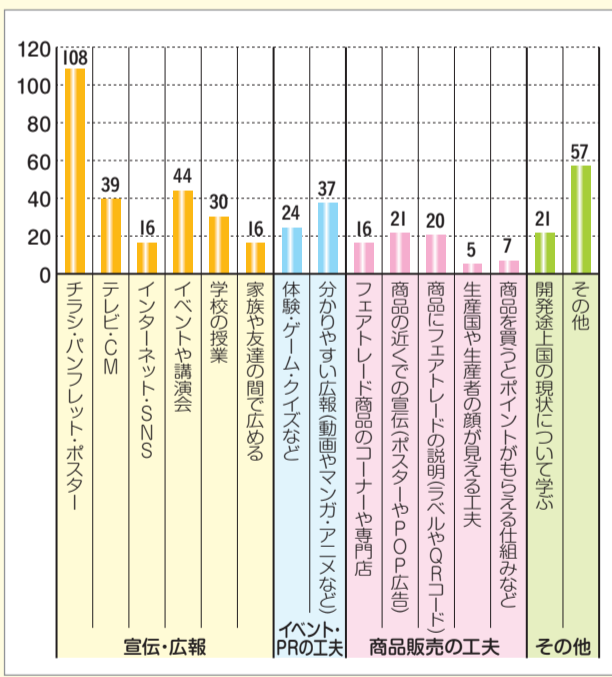


例えばこんな意見

- ツイッターやLINEなどのSNSで広く意見を聞いた方が、子どもにとっては身近でハードルが低い。
- どんなまちにしたいかなどを、定期的にワークショップで子どもたちに考えてもらったらいいと思う。
- 子どもが参加したいと思えることが大切。例えばゲーム大会とか、参加した人にお菓子をプレゼントするとか。
- イベントの企画、運営までをすべて子どもがやるなど、札幌のイベントを「見る」ではなく「体験する」ことで、子どもも札幌のまちづくりに参加できる。
- 「まちづくり」が敷居が高いタイトルはやめて、「こんなまちがいい」「みたいに、子どもにも分かりやすい」など、大人が子どもの声にしっかり耳を傾ける。
- 意見を言うこと、参加することなど、「子どもの権利」についてもっと教えてほしい。

フェアトレードの推進

313名
461件



札幌市の考え方

子どものまちづくりに参加について、たくさんの方のアイデアをありがとうございます。広報やPRの工夫について多くの意見をいただきましたが、今後はインターネット・SNSなども活用しながら、子どもにも興味を持ってもらえる分かりやすい広報に取り組みしていきます。また、札幌市では子ども議会など、子どもがまちづくりに参加する取組を行っているところですが、今回アイデアをいただいたような子どもが楽しめる工夫や、企画・運営から子どもに考えてもらう取組などを増やしていきたいと思えます。

この他、大人にはもっと子どもの声を聞いてほしい、子どもにも参加する権利があることを知らなかったという声もありました。子どもの権利の考え方を、大人にも子どもにも広く伝えていきたいと思えます。みなさんのアイデアを参考に、子どもが活躍できるまちを目指していきますので、みなさんも住んでいるまちや地域のことに考えて、一緒に良い札幌をつくっていきましょう。

例えばこんな意見

- CMでフェアトレードについて紹介したり、スーパーなどにフェアトレード商品のコーナーをつくってPRする。
- フェアトレードについての知識を出題するクイズ大会やクイズラリーが店やイベントであるといい。
- フェアトレードマークのある商品を扱うお店を見に行ったりして、友達や家族に教えてあげるといい。
- 商品を適正な価格で取引できなかったときの状態を分かりやすい図などで示すと、意識できると思う。
- 商品にQRコードを付け、読み取ることでフェアトレードの情報を発信するウェブサイトにこべるようにする。
- フェアトレードカードを作って、フェアトレード商品を買ったポイントがたまる制度を導入してほしい。
- 作られたものの背景に気を配り、その生産に関わる人々、自然に配慮し感謝の気持ちをもつことが大切だと思う。

札幌市の考え方

フェアトレードの大切さを理解してもらい、協力して取り組んでいくためにこんなことができるか、ということについて、多くのアイデアをいただき、ありがとうございます。札幌市では、昨年11月、秋元市長がまちとしてフェアトレードに取り組みしていくことを宣言しました。市では、市民の団体とともにフェアトレードをPRしているところです。また、まち全体でフェアトレードを応援する都市を認定する「フェアトレードタウン」になろうとしており、これが認められれば札幌が日本で5番目のフェアトレードタウンとなります。

このような中、今回、みなさんからいただいたアイデアを参考に、今後もフェアトレードの大切さを多くの方に理解していただけるよう取り組んでいきたいと思えます。たくさんのご意見をいただき、ありがとうございます。

札幌市子ども未来局子どもの権利推進課
〒060-0051
札幌市中央区南一条東一丁目 大通バスセンタービル1号館3階
011(211)2942 FAX(211)2943
kodomo.kentri@city.sapporo.jp

